

\* \* \*

## 学 会 記 事

\* \* \*

§ 平成 20 年第 3 回日本核医学会理事会  
議事録

日 時：平成 20 年 8 月 26 日(火)

12 時 00 分～16 時 00 分

場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者：

理事長：遠藤啓吾

理 事：玉木長良，中條政敬，小須田茂，  
米倉義晴，日下部きよ子，松田博史，  
福田 寛，望月輝一，桑原康雄，  
伊藤健吾，中村佳代子，畑澤 順，  
菅野 巖，汲田伸一郎，絹谷清剛，  
山崎純一

監 事：久保敦司，小泉 潔

次期会長：油野民雄

幹事長：織内 昇

事務局：神田正子

欠席者：

理 事：竹田 寛，荒野 泰

次々期会長：本田憲業

(敬称略，順不同)

## 議 題

## . 審議事項

## 1. 学会賞・研究奨励賞 (1)(菅野 巖理事)

学会賞受賞者は審査員の結果の通り承認された。

研究奨励賞には，3 名が選ばれた。

応募した題目が脳の PET に偏っており，今後は脳以外の応募も増えることを期待する意見が出された。

## 2. 日本核医学会アジア研究奨励賞の新設

(2)(菅野 巖理事)

Asian Young Investigator Award を学会の正式な賞として新設する。2 名の受賞者には旅費と滞在費を含めた副賞として 15 万円を支給することで開始し，詳細は必要により改訂する。前記の研究奨励賞の副賞は減額(3 名，30 万 20 万)して学会賞(2 名，40 万のまま)と合わせた総額を現行より超えないようにする。

## 3. 一般社団法人への移行と定款改定

(3)(小須田茂理事)

一般社団法人としての法人名の変更など現行の定款を改正して本年の総会に諮る定款(案)が作成された(日核事第 20043 号として評議員に送付)。

## 4. 平成 20 年度ワーキンググループ

(4)(畑澤 順理事)

応募された 4 課題が審議され，すべて採用が承認された。

## 5. 名誉会員，功労会員の推薦

(5)(小須田茂理事)

定款細則に基づいて推薦された名誉会員および功労会員は，全員が承認された。

## 6. その他

会長候補推薦結果の報告をうけて審議の結果，小須田茂理事が第 51 回総会の会長に決定した。

(21)(遠藤啓吾理事長)

2011 年の春季大会を大阪で開催したいとの提案があり検討することになった。

・ 報告事項

1. 第 48 回学術総会状況報告

(6)(菅野 巖実行委員長)

プログラムの概要が紹介された。第 1 日目に  
行われる社員総会では、定款改定の議決を行  
う。また閉会式の際に各種授賞式と名誉会員な  
らびに功労会員の授章式を行うことが報告され  
た。

社員総会の議題について説明があった。

(小須田茂理事)

2. 第 49 回学術総会準備状況報告

(油野民雄次期会長)

平成 21 年 10 月 1~3 日に旭川市で行う。

3. 第 50 回学術総会準備状況報告

特記事項なし。

4. 第 9 回春季大会準備状況報告

(遠藤啓吾大会長)

本年と同じく船堀で開催するが、2 日間の日  
程(平成 21 年 5 月 9, 10 日)が可能かどうかを  
検討することとした。

5. 会計報告 (7)(中條政敬理事)

損益計算書が報告され、年間累計で赤字で  
あることが示された。

6. 委員会報告

1) 編集委員会 (8)(松田博史理事)

投稿論文約 200 編のうち掲載は約 130 編  
が見込まれ、2007 年のインパクト・ファク  
ターは、0.987 と前年度より上昇した。国  
内からの投稿が減少傾向であること、Ann  
Nucl Med が第 20 巻で二重投稿の被害を受  
けたこと、来年からオンライン・ファース  
トを実施することが報告された。

第 1 回日本医学雑誌編集者会議設立総会  
が行われ、わが国の医学雑誌の現状等につ  
いて報告された。その中で臨床試験登録さ  
れていない臨床試験結果は、学術誌に掲載  
できなくなる可能性があることが報告され  
た。

2) 教育・専門医審査委員会

(9)(福田寛理事)

第 6 回核医学専門医試験の審査結果およ  
び核医学認定医ならびに核医学専門医の更  
新審査結果が報告された。PET 核医学認定  
医制度は、見直し規定に則り検討した結  
果、受験者数が増加傾向であること、設立  
の目的に沿って機能していることなどから  
制度の存続が提案され了承された。核医学  
専門医、PET 核医学認定医に関する Q & A  
について報告された。

専門医試験について、受験資格への内照  
射療法講習受講の義務化、口頭試問の必要  
性と問題点等が指摘された。

3) PET 核医学委員会 (10)(伊藤健吾理事)

自動合成装置の薬事承認の見込み、FDG  
合成装置の認知症に対する適応拡大に関す  
る対応が報告された。

高度医療評価制度については、メチオニ  
ンなど薬事承認されていない薬剤の申請は  
個々の施設が行うが、審査と承認の迅速化  
のため、多施設が協同して同時あるいは一  
施設が先行して他施設が後追い申請するこ  
とが求められており、このことに関して学  
会主導で取り組むことや情報提供について  
指摘された。

PET 研修セミナーは春季大会会期との関  
係のほか、内容見直し、再受講への対応に  
ついて協議していることが報告された。

サイクロترون施設からの漏洩線量に係  
る検討を日本アイソトープ協会のワーキン  
ググループを立ち上げて開始したことが報  
告された。

4) 健保委員会 (11)(日下部きよ子理事)

内照射療法の管理料算定に関する要望を  
厚労省に行ったことが報告された。また Y-  
90 の退出基準については、学会のガイドラ  
インの遵守が厚労省から通知されているこ  
とが報告された。

- 5) 広報委員会 (12)(中村佳代子理事)  
 学会からの連絡事項は学会誌への掲載を待たずに HP に掲載できることとした。また掲載希望に関しては、広報委員会が要望をうけて掲載する。HP 掲載にかかる費用には協賛や広告費を充てることが了承された。  
 腫瘍核医学データベースの掲載のため、腫瘍核医学 WEB フォーラムからの移行にかかる費用は日本メジフィジックス(株)が負担することが了承された。著作権および提供した施設ならびに会員への案内等について報告された。
- 6) 公益法人化対応委員会 (遠藤啓吾理事長)  
 審議事項 3 で審議済み。
- 7) リスクマネジメント委員会 (畑澤 順理事)  
 特記事項なし。
- 8) 放射線防護委員会 (米倉義晴理事)  
 特記事項なし。
- 9) 倫理検討委員会 (13)(遠藤啓吾理事長)  
 「臨床試験に関する倫理指針」の改正案概要に対して核医学会の意見を寄せた。放射性医薬品も副作用が皆無ではないため、一般の医薬品と同様に介入研究とされる可能性が高いことが報告された。
- 10) 学会賞選考委員会 (菅野 巖理事)  
 審議事項 1 で審議済み。
- 11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会  
 特記事項なし。
- 12) 核医学認定薬剤師に関する検討委員会  
 特記事項なし。
- 13) 将来計画委員会 (14)(汲田伸一郎理事)  
 アンケートを実施し会員増員のための案が報告された。核医学専門医試験における今後の方向性としては、受験者数や資格取得のメリットなどを考え、全領域の試験を課するのではなく、現状のまま分野別が適当であることが報告された。
7. ワーキンググループ (畑澤 順理事)  
 特記事項なし。
8. 分科会活動
- 1) 腫瘍・免疫核医学研究会 (15)(絹谷清剛理事)  
 本年 5 月 11 日に開催された第 43 回および 11 月 15 日に大宮ソニックシティで開催される第 44 回研究会について報告された。MIBG 内照射療法について同検討委員会が作成した施設基準、担当医研修プログラム、患者登録などの原案が報告され、さらに同委員会で検討することになった。また本年 12 月 6 日には日本内分泌学会褐色細胞腫検討委員会および京都医療センターの主催で開催される市民公開シンポジウムを後援することが了承された。
- 2) 日本脳神経核医学研究会 (桑原康雄理事)  
 10 月 24 日に開催された講演会とガイドラインについて報告された。
- 3) 日本心臓核医学会 (山崎純一理事)  
 6 月 27, 28 日に津市で開催され、講習会には約 1,000 人が参加した。改定したテキストを用いて今後も継続することおよび新しいガイドラインについて報告された。
- 4) 呼吸器核医学研究会 (小須田茂理事)  
 ガイドラインのなかで、PET の肺がん検診における有用性に関しては推奨 grade C とされていることが報告された。
- 5) PET 核医学分科会 (伊藤健吾理事)  
 本年の PET サマーセミナーは 430 名の参加者があった。来年は 8 月 28 ~ 30 日に東京の TFT ホールで開催される。
9. 国外学会等連携担当理事 (16)(中村佳代子理事)
- 1) 世界核医学会  
 会費の納付に関して調査していることが報告された。

## 2) 米国核医学会

本年の米国核医学会における本学会の活動が報告された。米国核医学会の会長らと話し合いが行われ、相互の活動について意見交換ならびに来年の米国核医学会における本学会企画の依頼を行ったことが報告された。

## 3) アジアオセアニア核医学会

(ARCCNM 兼務) (玉木長良理事)  
デリーで開催される本学会への参加者を募っていることが報告された。

## 4) 日韓中核医学会 (玉木長良理事)

2009 年は中国で開催される。

## 10. その他

## 1) 日本核医学専門技師認定機構活動報告

(17)(小泉 潔監事)

第 1 回核医学専門技師研修セミナーに 82 名が受講したこと、および来年の第 2 回の開催地を検討中であることならびに認定試験受験者のための講習会の開催が検討されていることが報告された。

## 2) 医学物理教育カリキュラムについて

(18)(小泉潔監事)

核医学分野における医学物理士の教育カリキュラムガイドラインを作成することが報告された。

## 3) 「甲状腺 RI 治療委員会」の設立について

(19)(日下部きよ子理事)

腫瘍・免疫核医学分科会のなかで安全管理の確立、退出基準の見直し、保険収載に関する要望などについて検討する「甲状腺 RI 治療委員会」を設立したことが報告された。

## . 確認事項

## 1. 前回議事録

(20)

平成 20 年第 2 回議事録を確認した。

§ 第 4 回有限責任中間法人 日本核医学会  
社員総会 議事録

日 時：平成 20 年 10 月 25 日(金)

18:15 ~ 19:15

場 所：千葉市 幕張メッセ 2 階第 4 会場 [201]

## 議 事

評議員定員 180 名(成立出席者数 90 名, 定款変更承認のための必要数は 135 名以上), 当日出席者 71 名, 委任状 92 名, 総計 出席総数 163 名との報告が事務局よりあり, 評議員会が成立したことを遠藤啓吾理事長が確認・報告した後, 遠藤啓吾理事長を議長として議事に入った。

1. 物故会員(大野良太様, 廣澤弘七郎様, 吉岡清郎様)3 名に黙祷が捧げられた。

2. 第 48 回日本核医学会学術総会 米倉義晴会長より, 総会概要の報告がなされた。

3. 第 49 回日本核医学会学術総会 油野民雄会長より, 総会準備状況の報告がなされた。

平成 21 年 10 月 1, 2, 3 日に旭川市文化会館および隣接する旭川グランドホテルで行う旨の報告がなされた。日本核医学技術学会総会学術大会との合同開催の形態を継続する。

4. 小須田茂庶務担当理事より, 日本核医学会定款変更内容について説明があり, 変更は承認された。

5. 小須田茂庶務担当理事より, 平成 19 年度事業報告, 定款細則変更内容についての説明が行われ承認された。

6. 中條政敬会計担当理事より, 平成 19 年度損益決算報告, 小泉潔監事より, 監査報告が行われ承認された。さらに中條政敬会計担当理事より, 剰余金処分案が提案され承認された。

7. 玉木長良庶務担当理事より、平成 20 年度事業計画案が提案され承認された。  
この際、出席評議員より、「Annals of Nuclear Medicine の発刊が来年度も年 10 冊の予定となっているが、そろそろ年 12 冊にしてはどうか」との意見が出されたが、松田理事より「投稿論文数が多くなく、採択率も約 60% であることから、現時点では困難である。国内よりの投稿が少ないので評議員の先生の教室からの投稿を増やしてもらいたい」との回答があった。
8. 中條政敬会計担当理事より、平成 20 年度収支予算案が提案され承認された。
9. 玉木長良庶務担当理事より、平成 20 年度役員について説明があり承認された。
10. 玉木長良庶務担当理事より、名誉会員として大石幸彦先生、鈴木豊先生、榎林勇先生の 3 名、功労会員として三嶋勉先生、木村和文先生、村田啓先生、鈴木謙三先生、石原十三夫先生、古瀬信先生、池田穂積先生、平木祥夫先生の 8 名の推薦があり承認された。
11. 遠藤啓吾議長が、出席者からその他の意見や要望などを求めたが、特に出なかった。
12. 遠藤啓吾理事長より、任意団体日本核医学会について平成 19 年度において特別な活動がなかった旨の報告があった。
13. 遠藤啓吾議長より、閉会宣言がなされた。